

アークフラッシュされた全国48箇所の老人施設は8年間インフルエンザの発症が報告されておりません。

< * > <http://www.arc-flash.co.jp> アークフラッシュ NEWS をダウンロードによりご覧頂けます

感染症情報

中国衛生部は1月31日、湖南省懷化市在住の21歳の女性が、鳥インフルエンザウイルスに感染していたことを確認したと発表した。ヒトへの感染としては今年に入ってから8人目。同部は先月24日から新疆ウイグル自治区、貴州省、広西チワン族自治区で相次ぎヒトへの感染確認を発表しており、この約10日間で新たに4件の感染が確認されたことになる。女性は先月23日に発病。29日に湖南省疾病予防控中心が行った検査で、H5N1型のウイルスが検出された。女性は発病前に死亡した家禽類に接触したことも確認されている。様態は安定しているという。湖南省では先月20日にも、16歳の男性が鳥インフルエンザウイルスに感染、死亡したことが確認されたばかり。同部は先月24～25日にかけて、新疆ウイグル自治区ウルムチ市在住の31歳の女性と、貴州省貴陽市在住の29歳の男性が、H5N1型ウイルスに感染したことを発表。このうち新疆の女性は死亡している。また先月26日夜には、広西チワン族自治区北流市在住の18歳の男性が鳥インフルエンザウイルスに感染していたことも明らかになっている。男性は発病前に死亡した家禽類に接触しており、19日に発病、26日に死亡した。中国での鳥インフルエンザウイルス感染による死亡は、これで計25人目となる。

広島県は1日、県立神石三和病院(神石高原町)で、入院患者8人と職員8人の男女計16人が下痢や嘔吐(おうと)などを訴え、このうち90代の女性が死亡したと発表した。死亡女性らからノロウイルスが検出されており、県は病院に対して2次感染防止の指導を行った。県によると、16人は1月23日から31日までに発症。このうち心不全などで寝たきりの状態で入院していた90代の女性が27日、消化管出血で死亡した。別の患者2人からもノロウイルスが検出されているが、全員が快方に向かっている。同病院では、県への連絡が31日になったことについて「因果関係がはっきりしなかったことや、職員の症状も当初は、すぐ治るなど風邪の症状と思っていた」などと説明している

米ミネソタで乳幼児の重い髄膜炎などの原因となるヘモフィルス・インフルエンザb型菌(Hib=ヒブ)。90年代のワクチン導入以降、ヒブ感染症の発生率が非常に低くなっている米国で、ミネソタ州に5件の発生が確認され、このうち乳児1人が死亡したことが分かった。当局はワクチン接種の徹底を呼び掛けている。日本では昨年末にワクチンが発売されたばかり。

ヒブは乳幼児にみられる髄膜炎や肺炎、呼吸困難を起こす喉頭蓋炎などの原因となる細菌で、インフルエンザウイルスとは別の病原体。米疾病対策センター(CDC)によると、

ヒブ感染症の致死率は5%と高く、回復しても難聴などの重大な後遺症が残る恐れがある。CDCによると、米国ではワクチンが普及する前、年間2万人の発症が報告されていた。ヒブによる髄膜炎の発症率は87年の時点で5歳以下の子ども10万人当たり4.1人だったが、ワクチン普及後の07年には同0.11人まで下がっていた。ミネソタ州での続発は異例とされ、CDCでは「ほかの地域でも同様の傾向が現れる可能性がある」と懸念を示している。ヒブ・ワクチンは生後2カ月から約1カ月おきに3回、さらに約1年後に追加で1回接種される。同州の患者5人のうち、死亡した生後7カ月の乳児を含め、3人の子どもは家庭の判断でワクチン接種を受けていなかった。残る2人のうち1人は接種完了前の乳児、もう1人には免疫不全疾患があったという。ワクチンは現在、世界110カ国で導入されている。日本では昨年末から任意で接種が受けられるようになった。

広島県は1日、同県神石高原町小島、県立神石三和病院(原田亘院長、95床)で、入院患者と職員の計16人が、下痢や嘔吐(おうと)、発熱などの症状を訴え、このうち90歳代の女性患者が消化管出血で1月27日に死亡したと発表した。ノロウイルスによる集団感染とみられるが、ほかの15人はいずれも快方に向かっているという。発表によると、40~90歳代の入院患者8人と職員8人が1月23日以降に症状を訴え、31日までに3人からノロウイルスが検出された。

山梨県市川三郷町立病院(河野哲夫院長、同町市川大門)は31日、70~90代の入院患者11人と20~30、50代の職員3人がノロウイルスによる感染性胃腸炎を発症したと発表した。全員軽症で、快方に向かっているという。30日に報告を受けた県峡南保健所は、調理従事者からノロウイルスが検出されなかったことなどから、食中毒ではなく集団感染と断定した。同病院によると、入院患者1人が1月25日、嘔吐(おうと)などの症状を訴え、同様の患者が続いた。検査の結果、入院患者7人、職員2人からノロウイルスが検出された。入院病棟への立ち入り制限や、手洗いの徹底など感染拡大防止策を取っている

鹿児島県によると、大崎町立菱田中(福宮勲校長、97人)でインフルエンザとみられる集団感染があり、2年(全1学級35人)を30日、学年閉鎖した。27日から患者が増え始め、30日は9人が欠席した。今季の集団感染発生件数は25件で、昨季同期より14件多い。

2月2日、新疆ウイグル自治区ウルムチ市の市場では家きんの販売が正常に行われており、時々市民が購入していた。販売業者によると、検疫当局の職員が市場内を毎日検査しているものの、鳥インフルエンザの影響で売り上げは大幅に減少している。

1月24日に新疆衛生庁は新疆で鳥インフルエンザの感染例が確認され、感染者が1月23日に死亡したことを公表した。緊急対策として、ウルムチ市の各医療機関では原因不明の肺炎に対し検査や報告、管理を行う応急処置班を24時間体制で稼働させている

3日付京華時報によると、中国の国家品質監督検験検疫総局(質検総局)は2日までに、米ジョージア州の企業「ピーナッツ・コーポレーション・オブ・アメリカ」が製造したピーナッツバターがサルモネラ菌に汚染されていたとして、米国などで製品回収が行なわれている同製品と同製品を使用している11社の食品の輸入を禁止した。質検総局は関連製品の輸入会社に、販売済み商品の回収と消費者向けの告示を命じた。入国者に対しても、米国産ピーナッツバターの検査を強化し、合格品だけの持ち込みを認める。郵送品の検査も強化する。米国内では、問題の製品により500人以上に健康被害が発生。うち6人は、同製品を食べたことで感染・発症し、死亡した可能性があるという。サルモネラ菌は人や動物の消化管に生息するサルモネラ属細菌の総称。チフス菌やパラチフス菌もサルモネラ属の細菌。一般には、◆食品を十分に加熱する◆調理器具や食器などを清潔に保つ◆手洗いを励行する——ことで、感染・食中毒を避けることができる

西ジャワ州保健局は、1月に州都バンドンで発生した Dengue 熱患者数が前年の2倍以上に達したと明らかにした。州では今年16人が死亡している。ジャカルタ・ポストなどが伝えた。ワヒュ伝染病抑制課長によると、バンドンの1月の患者数は622人で前年同月の300人を大幅に上回っている。ただ死者数は皆無で Dengue 熱に対する周知活動が奏功しているとの見解を示した。州の感染者数は1,909人でバンドンの感染が最大。一方、死亡率が最も高いのはブカシで、43人の感染に対し3人が死亡している。

2009年2月2日、雲南省衛生庁は同省玉溪市でコレラが発生したと報じた。20人が発病したほか、27人の保菌者が発見された。すでに隔離治療が実施され全員が回復したという。新華社が伝えた。1月15日から17日にかけて玉溪市通海県である葬儀が行われ、通海県、華寧県、江川県から585人が参加した。18日未明、葬儀に参加した農民の一人が激しい下痢を訴え病院に駆け込んだ。同日、さらに2人が同じ症状を見せたという。21日には検査の結果、コレラであったことが判明し

和歌山県は2日、紀の川市立西貴志保育所(同市貴志川町長原)の4歳児クラスの園児16人が1月30~31日にかけて下痢や嘔吐(おうと)などの症状を訴え、うち10人からノロウイルスを検出したと発表した。いずれも軽症で快方に向かっているという

広島県は1日、神石高原町小島の県立神石三和病院(95床)で1月23~31日にかけてノロウイルスの集団感染があり、入院患者や職員16人が発症したと発表した。発症した90歳代の女性患者が27日、上部消化管出血を起こし死亡した。ノロウイルスによる感染性腸炎が関与したことは否定できないという。県立病院課によると発症者の内訳は入院患者8人、職員8人で、15人はいずれも軽症という。福山地域保健所は31日に現地立ち入り調査し、同病院に二次感染防止の指導・助言をした。

2009年2月2日、台湾の大手食品メーカー「味全」の乳児用粉ミルクから、有害細菌のエンテロバクター・サカザキが検出されていたことが分かった。同菌は乳児の髄膜炎な

どを引き起こす恐れがあり、致死率は 50%にも及ぶとされている。東方網が伝えた。国家質量監督検疫総局(質検総局)は、昨年 8~11 月に発見された 852 の不合格食品および化粧品のリストを発表した。うち 10 月 17 日に香港に運び込まれた「味全」の粉ミルク 3 種類から、エンテロバクター・サカザキが検出されていたことが分かった。同菌は乳児の脳髄膜炎や腸炎、菌血症を引き起こす恐れがあり、発症した際の致死率は 20%~50%にも及ぶ。主な感染ルートは乳児用粉ミルクとされている。

中国ではメラミン入り粉ミルク事件で、30 万人にも及ぶ乳幼児が健康被害にあったばかり。同事件ではメラミン入り添加物を製造・販売していた業者が死刑判決を受けている。

最近の流行状況

2003 年 11 月以来、東南アジア、中央アジア、欧州などの広い地域において高病原性鳥インフルエンザ(H5N1 型)が発生しています。現在も引き続き、世界各地でトリからトリへの感染やトリからヒトへの感染が確認されていますので、御注意ください。最近の感染状況は以下のとおりです。

(1)ヒトへの H5N1 型鳥インフルエンザ感染状況 2008 年 12 月 4 日以降、世界保健機関(WHO)は、2008 年 11 月にインドネシア(リアウ州、ジャカルタ特別州)において 2 人が感染(うち 1 人死亡)、カンボジア(カンダール州)において 1 人が感染、同年 12 月にエジプト(アシュート県)において 1 人が感染(1 人死亡)したことが確認された旨、発表しました。

2003 年以降でヒトへの感染が確認されている国は、以下のとおりです。(2008 年 12 月 16 日現在:出典 WHO)

| | | |
|----------|------|-------------------|
| インドネシア | 感染者数 | 139 人(うち、113 人死亡) |
| ベトナム | 感染者数 | 106 人(うち、52 人死亡) |
| エジプト | 感染者数 | 51 人(うち、23 人死亡) |
| 中国 | 感染者数 | 30 人(うち、20 人死亡) |
| タイ | 感染者数 | 25 人(うち、17 人死亡) |
| トルコ | 感染者数 | 12 人(うち、4 人死亡) |
| アゼルバイジャン | 感染者数 | 8 人(うち、5 人死亡) |
| カンボジア | 感染者数 | 8 人(うち、7 人死亡) |
| イラク | 感染者数 | 3 人(うち、2 人死亡) |
| パキスタン | 感染者数 | 3 人(うち、1 人死亡) |
| ラオス | 感染者数 | 2 人(うち、2 人死亡) |
| ナイジェリア | 感染者数 | 1 人(うち、1 人死亡) |
| バングラデシュ | 感染者数 | 1 人(うち、0 人死亡) |
| ミャンマー | 感染者数 | 1 人(うち、0 人死亡) |
| ジブチ | 感染者数 | 1 人(うち、0 人死亡) |
| 計 15 か国 | 感染者数 | 391 人(うち、247 人死亡) |

(2)トリへの H5N1 型鳥インフルエンザ感染状況

国際獣疫事務局(OIE)によると、2008年12月4日以降、バングラデシュ(ナオガオン県、ラングプール県、ノルシンジ県)、中国(江蘇省)、香港(元朗地区)、インド(アッサム州、西ベンガル州)において、トリへの H5N1 型鳥インフルエンザの感染が確認されています(但し、バングラデシュのナオガオン県及びラングプール県は、2008年9月及び11月に発生。)その他、カンボジア当局及びFAO(国際連合食糧農業機関)によると、2008年12月4日以降、カンボジア(カンダール州)及びバングラデシュ(ガジプール県、ノルシンジ県、ナトーレ県)でトリへの H5N1 型鳥インフルエンザ感染が確認されています。

現在までに、H5N1 型鳥インフルエンザの発生が確認されている国・地域(61か国・地域)は以下のとおりです。

アジア(15): インド、インドネシア、カンボジア、タイ、韓国、中国、香港、日本、パキスタン、バングラデシュ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、モンゴル、ラオス

欧州(26): アゼルバイジャン、アルバニア、イタリア、ウクライナ、英国、オーストリア、カザフスタン、ギリシャ、グルジア、クロアチア、スイス、スウェーデン、スペイン、スロベニア、スロバキア、セルビア、チェコ、デンマーク、ドイツ、ハンガリー、フランス、ブルガリア、ポーランド、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ルーマニア、ロシア

中東(9): アフガニスタン、イスラエル、パレスチナ、イラク、イラン、クウェート、サウジアラビア、トルコ、ヨルダン

アフリカ(11): エジプト、ガーナ、カメルーン、コートジボワール、ジブチ、スーダン、トーゴ、ナイジェリア、ニジェール、ブルキナファソ、ベナン

*** 発行責任者: 株式会社アークフラッシュ本部**
笹川 透

03-5337-7275 FAX 5337-7465 sasagawa@arc-flash.co.jp

過去のアークフラッシュ NEWS はホームページよりご覧になれます。